

ずっとこの町に住んでいたい

住もうよ 高梁

人口の減少により、コミュニティの存続が懸念されています。地域の活力を引き出し、誰もが住みたくなるような地域を目指して、さまざまな取り組みを行います。市は定住促進や集落振興を図るため、市民生活部市民課内に定住対策室を設置しました。市関係部署や関係機関とも連携し、総合的な取り組みを進めていきます。



魅力あふれる
まちづくりを進めます

定住促進施策を積極的に展開しています。その一部を紹介します。

空き家・空き農地情報バンク

農地の荒廃防止と定住促進による地域活性化を図るため、市内の空き家・空き農地の情報収集、情報提供を行う制度。現在、約150人が登録しています。

今後、空き家を活用した短期滞在施設としてのお試し住宅の整備や田舎暮らしお試しツアーなどの開催と併せて、地域ぐるみで移住希望者の受け入れ体制を充実させていきます。

地域おこし協力隊

地域外の人材を積極的に誘致し、地域の活力を呼び起こす制度。協力隊の隊員は、まちづくりやコミュニティ活動の支援、地域の情報発信に関する活動などを行います。現在、備中町で隊員1人が活動しています。

定

住対策室は、職員3人体制。定住相談のワンストップ窓口として新設され、市内への移住相談も増加しています。

全国で人口が減少していく中、多くの市町村にとって定住対策は、大きな課題になっています。とはいえ、助成制度を中心に競争をしていたのでは、財政面で破綻してしまいます。また、他の自治体と同じことをしている、注目されません。常に「高梁らしさ」を前面に出して取り組んでいきたいと思っています。

今

後は、高梁商工会議所や備北商工会など関係団体の得意分野を生かした協力や連携を進めてきます。日本政策投資銀行と協力して行った「地域づくり健康診断」で、通勤通学では全ての周辺自治体からの流入が流出を上回っているという調査結果が出ています。特に市外から通勤している人に、市内に住んでもらえるようにしなければ。事業者と協力して、従業員の皆さんに市の定住対策制度を紹介してもらおう方法もあります。市内全体で、「高梁市に住もうよ」という機運を盛り上げていきたいと思っています。

「高梁らしさ」を打ち出して定住対策に取り組みたい

定住対策室大河室長に話を聞きました

